

2025 年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナールⅡ 後 (Seminar Ⅱ)					担当教員	複数人
2020-23 年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性
	2025-0-21-059	ゼミナール科目	必修	1 単位	2 年次	後期	
2024-25 年度 入学者(24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性
	2425-0-21-004	ゼミナール科目	必修	1 単位	2 年次	後期	

① 授業のねらい・概要
ホームルーム的役割を持ちつつ、1 年次のゼミナールⅠ 前・後と 2 年次の前期のゼミナールⅡ 前で修得した知識と能力を土台として、 (1) 情報収集能力と文章作成能力の向上、(2) 自己表現力の向上、(3) 論文作成能力の向上、を目標とする授業である。(1) については、情報収集の実践、文章作成の訓練、レポート作成等に取り組む。(2) については、ディスカッションやスピーチに取り組む。 (3) については、修了レポートの完成に取り組む。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
専門的知識・技能を活用する能力/コミュニケーション能力/情報収集・分析力を育成する授業である。
③ 授業の進め方・指示事項
ゼミナールⅡ 前において培った文章作成能力を発展・応用し、その成果として修了レポートを完成させることが中心的な目標となる授業である。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
⑤ テキスト(教科書) ※授業で使用する。
山田剛史・林創(2011)『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、その他、必要に応じて資料、レジュメ等を配布する。
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
授業において適宜紹介する。
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)
3・4 年次の専門的な学びのための論文作成能力の向上に向けて、修了レポート(論文)作成が最重要な目標になる。全ゼミで歩調を合わせて取り組んで行く。
⑧ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 文献等で調べた内容を適切に文章にまとめることができる。 (ii) 論文(修了レポート)作成の進捗や成果を他者に説明できる。 (iii) 論文(修了レポート)を完成し、調査・研究の成果をまとめることができる。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 文献等で調べた内容を文章にまとめ発表する。	文献等で調べた内容を十分に、授業で伝えたレジュメの形式に沿ってまとめ、卓越した考察も含め発表することができる。	文献等で調べた内容を十分に、授業で伝えたレジュメの形式に沿ってまとめ発表することができる。	文献等で調べた内容を不十分ながら、授業で伝えたレジュメの形式に沿ってまとめ発表することができる。	文献等で調べた内容を、教員等の支援を受けて、授業で伝えたレジュメの形式に沿ってまとめ発表することができる。	文献等で調べた内容を、教員等の支援を受けても、授業で伝えたレジュメの形式に沿ってまとめ発表できない。
(ii) 論文作成の進捗や成果の他者への説明	論文作成の進捗や成果の他者への説明が高い水準ででき、授業内容を越える学修成果を示している。	論文作成の進捗や成果の他者への説明が十分にできる。	論文作成の進捗や成果の他者への説明が不十分であるができる。	論文作成の進捗や成果の他者への説明が教員等の支援を受けてできる。	論文作成の進捗や成果の他者への説明が教員等の支援を受けてもできない。
(iii) 論文(修了レポート)	形式、内容、独創性等の点で高い水準の論文を作成している。	形式、内容、独創性等の点で十分な論文を作成している。	形式、内容、独創性等の点で少数の不備な箇所もあるが論文を作成している。	形式、内容、独創性等の点で多数の不備な箇所があるが論文を作成している。	教員等の支援を受けても論文が作成できない。

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 （レポートを含む）	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%		10%	20%	20%		100%
（i）文献等で調べた内容を文章にまとめ発表する			5%	10%	10%		25%
（ii）論文作成の進捗や成果の他者への説明			5%	10%	10%		25%
（iii）論文（修了レポート）	50%						50%
フィードバックの方法	提出された課題、レポート等に助言をつけて返却する。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	イントロダクション、スケジュール、前期ゼミの成果全般の確認	前期ゼミでの取り組み内容の確認	240 分
2	スピーチ、修了レポートの概要報告	修了レポート作成への取り組み	240 分
3	スピーチ、修了レポート概要の修正報告	修了レポート作成への取り組み	240 分
4	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	修了レポート作成への取り組み	240 分
5	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	修了レポート作成への取り組み	240 分
6	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	修了レポート作成への取り組み	240 分
7	スピーチ、修了レポートの中間報告と討論	修了レポート作成への取り組み	240 分
8	スピーチ、修了レポートの中間報告と討論	修了レポート作成への取り組み	240 分
9	スピーチ、修了レポートの中間報告と討論、個別の詳細指導	修了レポート作成への取り組み	240 分
10	スピーチ、修了レポートの中間報告と討論、個別の詳細指導	修了レポート作成への取り組み	240 分
11	修了レポート・プレゼンテーションの準備、個別の詳細指導	修了レポート・プレゼンテーションの準備	240 分
12	修了レポート・プレゼンテーションの準備、個別の詳細指導	修了レポート・プレゼンテーションの準備	240 分
13	修了レポート・プレゼンテーション	修了レポート・プレゼンテーションの準備	240 分
14	修了レポート・プレゼンテーション	修了レポート・プレゼンテーションの振り返りに 関する考察	240 分
15	全体の振り返り	全体の振り返りに関する考察	240 分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL、協同学修型 AL を採用する。修了レポートの作成において、教員が修正点を指摘しレベルアップを促す。スピーチ、プレゼンテーション、討論においても、教員がコメントを行うことで能力向上を図る。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性